

はじめに

いたっボールは伊丹市体育指導委員会が中心となって「スポーツの楽しさをあなたに」を合言葉に北海道有珠郡壮瞥町をはじめとして各地で行われている「雪合戦」を雪のない地域でも楽しめるように、また、参加者全員のコミュニケーション作りに重点をおき、子どもたちとその家族そして地域の皆さんが一緒になって楽しめるよう工夫した新しいファミリースポーツです。

ルールは簡単です。ドッチボールに陣取り合戦を合わせた対戦スポーツです。コート内の障害物を利用しながらお互いにボールを当て合い、自分たちのフラッグを守りながら相手のフラッグの奪取を目指します。ボールを当てられたプレイヤーはアウトになり、早く相手のフラッグを奪うか相手チーム全員をアウトにしたチームが勝ちとなります。

いたっボールを楽しく安全に本来の目的にそって行えるよう標準的なルール、用具等をこのハンドブックにまとめました。作成にあたっては日本雪合戦連盟のルールを参考にさせていただきました。関係者の方々にお礼申し上げます。

標準ルール

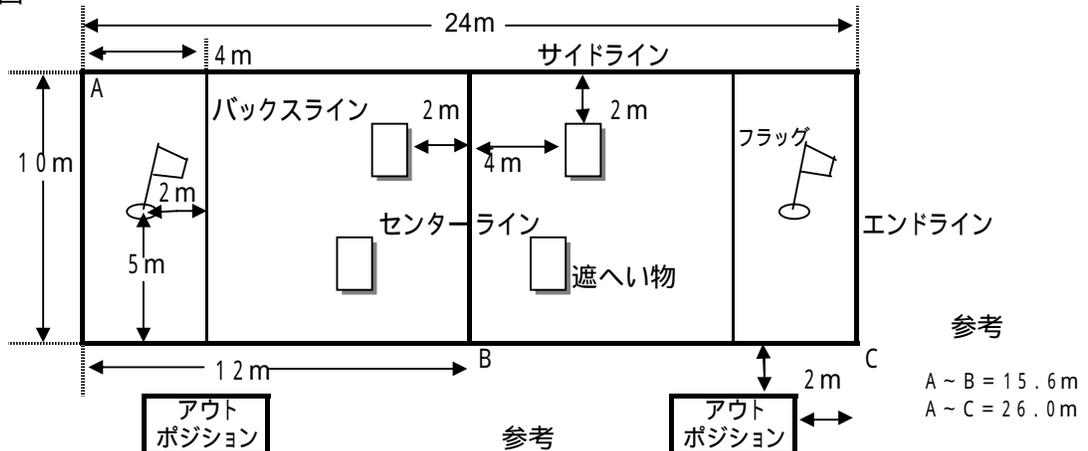
第1章 定義

標準ルールはいたっボールを楽しく安全にコミュニケーション作りの一環として円滑に実施できるよう標準的な進め方を定めています。その実施対象、参加者、場所、地域等の実情に合わせて変更することは差し支えありません。

第2章 コート

- (1) コートは横 24 m、縦 10 m の長方形もので幅 5 cm 以上のラインで区画します。(第1図参照) 注1
- (2) ラインは横をサイドライン、縦をエンドライン、コートを二分するラインをセンターライン、それぞれのエンドラインの内側 4 m のラインをバックスラインといいます。
- (3) センターラインで二分されるコートそれぞれに 2 枚の遮へい物を一方のサイドラインから 2 m、センターラインから 2 m の位置と他方のサイドラインから 2 m、センターラインから 4 m の位置に相手コートのそれと相対して向かい合うように置きます。
- (4) 各々のチームのエンドラインから 2 m、サイドラインから 5 m の位置に各々のチームのチームフラッグを立てます。
- (5) 各々のチームのエンドラインから 2 m、サイドラインの外側 2 m の位置に 1 m x 2 m のアウトポジションを設けます。

第1図



第3章 用具

(1) ボール

ボールは直径7cm以下、重さ50g以下の球形に近い柔らかい専用のもの又はスポンジ製などのものを使用します。

(2) かご

かごは外からその中が見え、ボールを7個入れることのできる大きさのもので、それに取りつけられたベルトで腰に容易に取り付けることができるようにします。

(3) ゼッケン

ゼッケンはチームメンバー全員同じ色で前後に数字のついたものをつけます。メンバー各々の数字は異なるようにします。また、対戦チーム各々のゼッケンは同色にならないようにします。

(4) 遮へい物

縦・横ともに90cmのダンボール及びそれに準じるもので立てることのできる構造にします。

(5) チームフラッグ

チームフラッグは縦・横40cm以上100cm以下の布製で長さ150cm以上200cm以下のポールに取りつけ、旗立てに入れます。

第4章 競技の方法

(1) 競技方法

- ・ 競技はチーム対抗方式で行います。
- ・ プレイヤーはボールを相手チームプレイヤーに投げ当てながら相手チームのチームフラッグを奪います。
- ・ プレイヤーが使用できるボールは自分のボール(7個)だけです。
- ・ センターラインを超え相手コート内に同時に入れるプレイヤーは3名以内です。
- ・ 自分コートのバックラインより内側に同時に入れる自陣プレイヤーは2名以内です。 注2

(2) チーム

チームは7名で構成され、各々のプレイヤーは7個のボールを腰につけたかごに入れます。

(3) 競技開始

チームは競技開始前にそれぞれのバックラインの前に整列後、主審の合図でそれぞれのポジションに移動し競技を開始します。

(4) 競技時間

競技時間は5分間とし、中断に要した時間は含みません。

(5) プレイヤーアウト

次のプレイヤーはアウトとなります。アウトになったプレイヤーはアウトポジションにて待機します。

- ・ 相手プレイヤーのボールに直接当たった時。(他のプレイヤー、遮へい物、地面に先に当たったボールに当たってもアウトになりません)
- ・ 相手プレイヤーの投げたボールを受けた時。
- ・ サイドライン、エンドラインを超えた時。
- ・ 相手コート内に3人の自分チームのプレイヤーが入っている時さらに4人目が入った時(4人目のプレイヤーがアウトになります) 注3
- ・ 自分コートのバックラインの内側に2人の自分チームのプレイヤーが入っている時さらにそこに入った時。 注4
- ・ 落ちているボールや手やかごから落としたボールを拾った時。
- ・ 他のプレイヤーからボールを受け取った時。
- ・ 相手の進路を体を使って妨害するなどの不正な行為を行なった時。

(6) 勝敗の決定

次により勝敗は決定します。

- ・ 相手チームのフラッグを奪った時点で奪ったチームの勝ちとなります。
- ・ 相手チームのプレーヤー全員をアウトにした時点で勝ちとなります。
- ・ 競技時間内に勝敗が決しないときは、競技時間終了時の残りプレイヤーの多いチームを勝ちとし、同数の場合はトスにて決定します。

第5章 審判

(1) 構成

- ・ 審判員は主審 1 名、副審 4 名、旗審 2 名の合計 7 名で構成されます。その位置は第 2 図のとおりとします。

(2) 主審

- ・ 主審は副審、旗審の補佐を受け、競技の進行を行い勝敗の判定と宣告を行います。
- ・ アウトの合図・宣告、競技の開始と終了の合図を行います。

(3) 副審

- ・ 副審は主審を補佐しながら競技の進行を行い、アウトの合図・宣告と旗審のチームフラッグ取得の判定の補佐を行います。

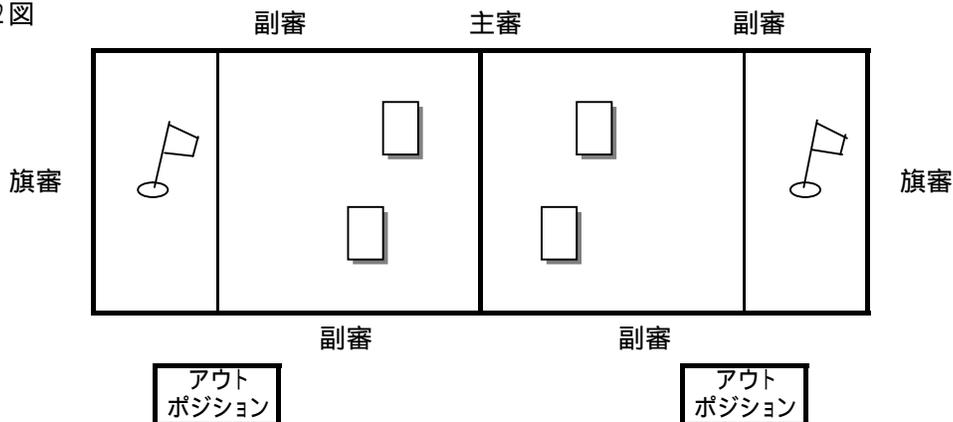
(4) 旗審

- ・ 旗審は主審を補佐しながら競技の進行を行い、アウトの合図・宣告と自分サイドのチームフラッグ取得の判定・合図を行います。

(5) 合図

- ・ 合図はホイッスルで行い次のように使い分けます。
競技開始 : ピーーーーー 長く
アウト : ピッ 短く
旗奪取(競技終了) : ピッピーーーー 短く長く
- ・ アウトはホイッスルの合図と同時にそのプレーヤーのゼッケンの色と番号を宣言します。

第2図



大会(小学生)運営のためのローカルルール及び審判確認事項

大会を運営するにあたり小学生向けのルール(ローカルルール)を採用し、既存の体育施設(コート)を有効に利用して実施する。

ルール中の 注1～4については、以下のとおり変更する。

- (1)コートは、体育館のバレーボール及びミニバスケットボールのコートを代用する。このとき、バックラインがないため、バックラインアウトはルールとしない。
- (2)センターラインの審判は、3人のFWが相手コートに入った時に「3FW(スリーフォワード)」を宣言し、攻撃チームに注意を促す。
4人目のFWが入った場合は、速やかにアウトを宣言する。その際、すでに相手コートに侵入しているFWのいかなる行為も無効とし、3人のFWはいったん自陣にもどすこととする。
- (3)ボールに当たってアウトになる場合で、お互いにボールを投げたあとに各々のボールが当たった場合は両者アウトとなる。
アウトになっていないプレイヤーが投げたボールは、床に落ちるまでは有効である。
- (4)ボールを手に持ったまま相手にタッチしてもセーフであり、相手プレイヤーに対する妨害とみなしボックスがアウトとなる。
- (5)旗審はフラッグの奪取と同時に相手方のフラッグを確認し、どちらが先か正確にジャッジする。
フラッグ奪取の際、判定をめぐってプレイが中断したときは、後続のプレイヤーの行為を止め、いったん自陣へもどらせフラッグの判定をしてからゲームを再開させる。
- (6)ボールはひとつずつ投げることとする。一度に数個のボールをつかんで投げることはできない。
- (7)安全に競技を進行するために
 - ・フラッグを守るボックスはフラッグから1歩離れるよう指導する。フラッグを囲むように守ると相手FWと接触することが多いため旗審は常に注意する必要がある。
 - ・硬式ボール(硬いもの)を使用する場合は、プレイヤーはもちろん旗審もヘルメットを着用する。なお、サイドラインの審判も注意が必要である。
 - ・スポンジボールでは、ボールによるケガはほとんどないが、プレイヤーどうしの衝突によるケガを防止するため、簡易なヘルメットを着用することがのぞましい。

大会実施の参考事項

1. 運営係

- (1) 大会の運営は進行係、選手係、審判員で行います。
 - ・ 進行係は大会全体の進行の管理と記録を行います。
 - ・ 選手係はチームの召集と誘導及び準備を行います。
 - ・ 審判員は協議の進行、判定を行います。

2. 運営手順

- (1) 運営係役割分担
 - ・ 運営者を進行係、選手係、審判員に割り振ります。
- (2) チーム編成
 - ・ 参加者をチーム編成し、それぞれのチーム名を決めます。
- (3) 対戦組み合わせ
 - ・ 対戦の組み合わせと進行順序を決めます。
- (4) 開式
 - ・ 参加者を集合させ、ルール、運営方法、注意、その他の説明を行います。
- (5) 競技開始
 - ・ 後述
- (6) 閉式
 - ・ 参加者を集合させ結果の報告を行います。

3. 競技進行手順

- (試合前) ・ 審判員は所定の位置につきます。
 - ・ 対戦チームをセンターラインをはさんで並ばせます。
 - ・ 代表者のトスによりコートの方を決定します。
 - ・ 何セットマッチで行うのかと両チームの紹介を行い挨拶をさせます。「 チームと チームの試合を セットで行います。お互いに礼」
 - ・ お互いのコートバックラインの前に1列に整列させます。
 - ・ 旗審は整列した選手の人数ボールの数等の確認を行い、準備ができていれば主審に対し片手を上げてその旨の合図を行います。
- (開始) ・ 主審は両サイドの旗審の合図を確認し競技開始の合図を行います。「はじめ ピー—— (長い笛)」
 - ・ 競技進行
 - ・ 旗審のチームフラッグ取得の合図を受け、主審は競技終了の合図「ピッピー—— (短く長く)」をし、選手をセンターラインに集めます。
 - ・ セット数に合わせてコートチェンジを行い、上記のとおり進行します。
- (終了) ・ 主審は選手整列後、ゲームの勝敗の宣言をし競技を終了します。
「ただいまのゲーム 対 で チームの勝ち、お互いに礼」
- (試合後) ・ 試合のたびにボールは選手が集めるよう指示します。
 - ・ 試合の勝敗について進行係に連絡します。

4. 準備物

(1) 競技用具

・ボール	1コート当たり	98個(2チーム分)
・かご	"	14個(2チーム分)
・ゼッケン	"	7枚(2チーム分)
・遮へい物	"	4枚
・旗	"	2枚
・旗竿	"	2本
・旗台	"	2個
・笛	"	7個
・ストップウォッチ	"	1個

スポンジボール以外の硬式屋内球を使用する場合は、硬式用のヘルメットを着用する。

(2) その他の準備物

- ・ 対戦表、進行表及びその掲示板
- ・ 巻尺
- ・ 放送器具、メガホンなど
- ・ 筆記用具（ボールペン、マジック、セロテープなど）

(参考)

備品単価(定価)

・スポンジボール (ダンロップ製、ヨネックス製など)	200円～250円
・硬質ボール	250円(アシックス製)
・かご	70円～(2kg用梨かご)
・ゼッケン	1,000円～
・遮へい物(特注ダンボール) 90cm×45cm×30cm(ひとつの遮へい物に2個必要)	200円
・旗	10,000円前後(手作りでも可)
・旗竿	500円～
・旗台	2,500円～
・笛	200円～
・硬質ボール用ヘルメット	9,000円
・かご固定用ベルト	250円～

スポンジボールを使用した場合の用具代(定価による概算)

スポンジボール	7人×2チーム分=98個	98個×250円=24,500円
シャトーカバー	シャトー4個分(4枚)	4枚×3,200円=12,800円
かご	7人×2チーム分=14個	14個×70円=980円
かご用ベルト	7人×2チーム分=14個	14個×250円=3,500円
ダンボール	2個組×4セット=8枚	200円×8枚=1,600円
支柱セット	500円+2500円×2セット	=6,000円
～ 合計		49,380円

ビブス、旗を除く

スポンジボールについては、ショートテニス(クォーターテニス)の中古ボールを利用できます。